

平成27年度 熊本市立千原台高等学校 学校評価 自己評価

1 学校教育目標						
(1)志を持って学び、社会生活に必要な知識や技術及び適切な判断力と実践力を身に付け、責任感と協調性に富む人材を育成する。 (2)心豊かな人間性や社会性を持ち、国際的な視野に立って健全な社会の発展に寄与することのできる人材を育てる。 (3)自主的、自立的的精神を持ち、自らの課題に積極的に取り組み、問題解決を図っていくことのできる賢くたくましい人材を育成する。						
2 本年度の重点目標						
(1) 日々の教育活動 ア スローガン 『志を持って学び、心豊かで、賢くたくましい人材の育成』 イ 豊かな人間性の育成 ウ 確かな学力の向上 エ コースの特色を生かす教育活動の充実とキャリア教育の推進 オ 健やかな体の育成 カ 学校・家庭・地域社会の連携及び教育環境の整備						
(2) 重点項目 ア 基本的な生活習慣の確立と爽やかな挨拶の励行 イ 学力の向上及びキャリア教育の充実 ウ 読書活動の推進 エ 部活動の振興 オ ボランティア活動の推進 カ 教育課程及び評価の工夫 キ 学校評価及び授業評価等の改善						
3 評価項目及び評価						
大項目	小項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価 5 段階	成果と課題
学校 経営	学校の教育 目標の達成 に向けた取 組の充実	学校目標の 理解	保護者アンケート で教育目標の理解 度を80%以上にす る。	・校長室等々の広報物を通じて 周知を図る。 ・ホームページへも掲載し、保護 者の理解を進める。	3	広報物やHP等に掲載し、集 会等においても教育目標の周 知につとめたが、目標の数値ま では届いていない。今後も更に 掲示等の工夫が必要である。
		学校目標へ 向けた取組 の具体化	職員一人一人が学 校の教育目標を念 頭に、それぞれの 目標を設定する。	・自己評価の育成面談等を通じて、 教育目標への理解を深め、具体的 な取り組みを促す。	3	職員の面談時に目標を意識 した取り組みを促したが、十分 な浸透を図ることは出来なかつ た。自己評価目標設定を徹底 させる必要がある。
学力 向上	生徒の基礎 学力の向上	基礎学力向 上	地元大学への一般 入試で合格できる 学力を養成する。	・外部模擬試験等を活用して、各 教科で到達目標を設定し、学力状 況をチェックする。	3	1・2年生が年に2回の模試 に取り組み、学力状況を把握す るとともに学校生活や家庭生 活での課題も見えてきた。基礎 力養成に向けては、今後の取り 組みを一層充実させる必要が ある。
		学習習慣の 確立	毎日1時間以上の 学習時間を確保す る。	・家庭学習時間調査を実施し、生 徒に応じた個別指導を行う。 ・家庭学習を促すための課題を課 す。 ・休業期間中の課題を整理し、課 題テスト等を通じて、学習をうな がす。	2	学習習慣の確立、学習時間の 確保のため、朝課外や土曜講座 等の実施を行ったが、生徒の家 庭学習時間の確保や習慣化に 至っていない。学力を向上させ るためには授業や課題のあり 方を含め、大きな課題である。
進路 指導	生徒の進路 実現	推薦入試の 合格率向上	推薦入学者の合格 率100%を達成 する。	・進路別課外を通して基礎学力の 向上を図り、全職員による小論文、 面接指導に取り組む。 ・進路別の模擬試験を活用し、学 力の定着状況を把握し、課外指導 等に活かす。	4	小論文、面接、課外と全職員 協力のもと取り組むことがで きた。100%という目標は達 成できなかったが、順調に決定 者を増やしている。生徒の基礎 力の定着には今後一層の工夫 が必要である。
		就職内定率	学校推薦による就	・外部団体のガイダンスやセミナ	4	昨年に比べ、数値目標として掲 げた内定100%には達してい

		の向上	職希望者の内定率100%を達成する。	一を活用し、生徒の勤労観を育て、就労意欲を高める。 ・全職員による面接指導を実施し、受験に備える。		ないが、今後の取り組みで達成可能である。1度目、2度目の受験で内定を得る生徒がいる一方、連続して不調（不合格）になる生徒も数名でており、能力・適性について、指導助言を含め、的確な就職指導が必要である。
	キャリア教育の充実	進路目標に向けた生徒の取り組み	自覚を持って進路目標へ向けて努力する生徒を80%以上にする。	・職業インタビューやインターンシップへの取り組む姿勢について指導を強化する。 ・1年次よりライフプランニング教育に取り組み、生徒の進路選択に活かす。 ・進路ファイルの活用を進める。	3	外部との連携はよくとれたが、校内の各種行事との調整がつかず、機能できなかった取り組みもあり、他分掌との連携を強化するとともに、計画全体の見直しが必要である。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	遅刻生徒の根絶	時間を守ることの大切さを理解させ、遅刻者、0を目指す。	・朝の登校指導において指導の徹底を図る。 ・学年、担任と連携し、遅刻者への個別指導を行う。	4	学年部の協力も得られ、朝の登校指導による遅刻者の減少に成果が出てきていると思う。課題は、遅刻生徒の固定化であり、継続的な指導を要する。
	交通安全意識の確立	交通事故件数の減少	加害被害とも、交通事故の件数を減少させる。	・「交通安全講話」を実施し、その危険性を理解させる。 ・生徒集会やHRを通じて指導を行い、安全意識を高める。 ・危険箇所については、登下校指導を行い、具体的に指導する。 ・危険箇所の登校指導を行い、具体的な指導を心がける。	4	随分と良くなっているものの、まだまだ接触事故や近隣住民からの苦情も多い。命に関わることなので、更に極め細やかな指導と交通事故の危険性について啓発活動が必要である。被害者としてもだが、絶対に加害者にならないよう交通マナーの遵守に努めさせる。
人権教育	他者を思いやる人権感覚の育成	いじめの根絶	良好な人間関係を構築させ、いじめを根絶する。また様々な差別について学習し、人権感覚をみがく。	・担任面談や教育相談を充実する。 ・「心のアンケート」やその簡易版を実施し、早期の把握に努める。 ・いじめ根絶に向けた標語等を募集し、生徒の意識高揚を図る。 ・人権特設LHRを充実させる。	3	「心のアンケート簡易版」の実施回数を増やしたり、いじめの実態把握に努めた。また人権特設LHRの指導案を新しいものに変えていくなどして、授業をより身近なものに感じる工夫を重ねた。
開かれた学校づくり	地域との連携と協力	・学校情報の公開 ・ボランティア活動の推進	・保護者、地域住民の来校数を増加させる。 ・地域主催の諸行事にボランティア参加を促す。	・公開授業週間を設け、気兼ねなく来校していただく機会とする。 ・地域行事へ参加し、ボランティア活動を行う。 ・定期的に清掃活動を行い、地域に貢献する。	4	地域の諸活動へはよく協力できており、地域からも一定の評価を得ている。今後も継続的な活動を行いたい。 授業公開時の来校者については、PTA役員を中心として保護者の参加をいただいたが、まだ数は少ない。より一層、周知を図り、授業内容の改善に努める必要がある。

4 成果と今後の課題

生徒指導や地域との連携についてはよく取り組めており、一定の成果を上げてきている。同様に、部活動、生徒会活動、各種コンクール等においても地道な取り組みが行われており、教育的効果も高く、生徒の成長に繋がっているところである。

しかしながら、学力向上や学習時間の確保という面についてはまだまだ課題が残されている。特に学習に対する取り組みについては目標値にはほど遠い状況にある。プロジェクトチーム等を発足させ、組織的な取り組みを検討すべき状況にある。

交通安全への取り組みについては、少しずつではあるが改善が見られている。ただ、事故は相変わらず頻発している。軽微な事故が多いが、いつ重大事故につながってもおかしくない状況もあり、地域からの指導指摘も多い。今後とも、外部機関との連携を進め、指導の徹底を図る必要がある。